

## 『私を変えた日』

株式会社板垣 イオンモール佐久平店

小暮 ひとみ

一日を振り返って「良かった」と思えること以上に「できなかったこと」が頭を埋め尽くしていく。そんな日々が続く、私は自信を無くしていた。

ある日、いつも通り出勤し仕事をしていると遠巻きに私の方を見ている男女のお客様がいた。どなただろうと探りながら入店を促そうとしたとき、お客様の方から「こんにちは」と挨拶をされた。その声を聞いて、一瞬きょとんと固まってしまった。そのふたりは、私がいつも通っている美容院のご夫婦だった。

なぜ声を聞くまで気づかなかったかという、その美容院から私の勤め先までは片道百キロメートル。車で一時間半はかかるので、気軽に来るには遠いところにあったからだ。

私は社会人になる前からその美容院にお世話になっている。実家から近い、私は帰省ついでに通うことができた。しかし先方は違う。わざわざ遠くから足を運んでくれたことに驚きと動揺を隠せなかった。

「今日はメガネを作りに来ました」と奥様が言う。装用されるのはご主人様で、数か月前に「そろそろメガネを新調したい」と話していた。「メガネを作るときは小暮さんのいる店に行きます」と仰っていたが、私はそれを単なる社交辞令だと思っていた。まさか本当に来ていただけるとは…。

ご夫婦に、なぜ突然来られたのかを尋ねると、その美容院をいつも利用している方たちへの恩返しツアーをしているとのこと。しかも、その第一号に選ばれたのが私であると聞き、ますます驚いた。

そのご夫婦のご来店を境に、失われつつあった自信や仕事に対する喜びが少しずつ良い方向に変化していった。「わざわざ」遠くから時間をかけて来てくださったこと、私が選んだメガネが欲しいと思ってくださったことが純粋に嬉しかった。

私はそれまでの仕事の中で本当にお客様の役に立っているか自信が持てず不安だった。しかし、そのご夫婦が足を運んでくれた目的は間違いなく「私」で、私にメガネを選んでほしいという思いで来てくださった。そのご夫婦に気づかせてもらった。自分という存在が誰かの役に立っているということに。それと同時に反省もした。今まで「わざわざ」お店に来てくださった方に対する感謝の気持ちが足りていなかったということに。

その日以来、お客様の「わざわざ」を見逃さないように心掛けている。そうすることで感謝の気持ちを忘れず、お客様のお役に立てているという自信も湧いてくるからだ。

そのことに気づかせてくれたご夫婦は、私にとっての恩人である。今度は私が恩返しサプライズで驚かせようと計画を練り始めるのであった。